

## 【臨床・研究】

# 1歳半健診後のカナー型自閉スペクトラム症 (ASD) が疑われる児への図書に基づく親による介入の背景

いずみ  
泉のぶ  
お  
信 夫

キーワード：カナー型自閉スペクトラム症 (ASD), 自然な発達行動介入 (NDBI), 家庭, 図書, ライフスキルトレーニング

---

## 要 旨

---

1歳半健診頃にカナー型 ASD が疑われる児は親子間の繋がりが乏しい。この頃の介入は、家庭で親が児の行動を観察し、児の関心に即反応し、また、児から関心を引き出す工夫をして親子の繋がりをつくることから始める。応用行動分析 (ABA) に発達科学を取り込んだ自然な発達行動介入 (NDBI) と称される。日本の現状は十分な親指導を行う態勢にないが、NDBI に基づく親への指導書がある。介入には発達の準備段階の判定など医師のサポートが望まれる。NDBI の背景を簡単に述べた。

---

## はじめに

法的にも自閉スペクトラム症/自閉症スペクトラム障害 (autism spectrum disorder; ASD) に対し、症状発現後できるだけ早期に発達支援を行うとあり<sup>1)</sup>、1歳半健診でのスクリーニングが求められている (2歳での実施も望まれる)<sup>1)</sup>。

一般に3歳未満に高機能 ASD 児を認識することは、親に育児上の困り感がなければ難しく<sup>2)</sup>、1歳半健診では言葉と非言語コミュニケーション

に遅れを抱えるカナー型 ASD の発見と対応に力を注ぐことになるが<sup>2)</sup>、この頃の確定診断は容易でなく、介入はそれを待たず始めるとされる<sup>3,4)</sup>。

早期介入は当初は主に学齢前期児を対象とした早期集中的行動介入 (Early Intensive Behavior Intervention; EIBI) が randomized controlled trials (RCTs) で有効性が示されたが、EIBI の反省点も踏まえ、進展した乳幼児の発達科学を取り込み、更に早期に3歳未満、特に2歳未満に、児の自発性を重視しつつ行う自然な発達の行動介入 (Naturalistic Developmental Behavioral Interventions; NDBI) が研究されてきた<sup>3,7)</sup>。NDBI は家庭での親による介入を柱とし、療育専

---

Nobuo IZUMI

出雲市

連絡先：〒693-0021 島根県出雲市塩冶町909-3

出雲市